

## 第97回理事会、第33回通常総会を開催

平成17年5月13日、社団法人 電池工業会 第97回理事会、第33回通常総会を機械振興会館で開催した。第1号議案から第9号議案までを審議し、提出9議案はすべて可決承認された。

これにより、平成17年度事業計画が決定した。

正会員18社（総員21名）の出席を得て、第33回通常総会を開催した。

田中 千秋 会長（日本電池株式会社 会長）が議長となり、第1号議案から第9号議案までを審議し、報告事項を確認した。

### 1. 第1号議案 平成16年度事業報告の件

平成16年度の重要課題は、再資源化、技術標準化、PL、広報啓発、国際関係であった。

・**再資源化への取り組み** 小形二次電池再資源化推進センターが独立し、平成16年4月1日より「有限責任中間法人 JBRC」としての新たなスタートを切り、産業廃棄物広域認可を取得した。

また、鉛蓄電池の再資源化に向け、「有限責任中間法人 鉛蓄電池再資源化協会（SBRA）」が独立し、新たな回収・リサイクルスキームを構築中である。

・**標準化に対する取り組み** JIS規格は、基本的にはIEC規格に整合させる必要があるため、JIS規格の改定と新規格の制定を公募事業とし多数実施してきた。IECはもとより、米国のIEEEの審議に積極的に参画し、日本案の盛り込みに注力し、成果を得た。

・**PLに関する活動** リユース乾電池への対応策として、この販売事業を行っているNPOへ危険性の説明を行った。

リチウムイオン電池の非純正バッテリーパックの対策について、(社)電子情報技術産業協会（JEITA）と協調して、注意文をホームページに掲載した。



・**広報啓発活動** 「電池の安全で正しい使い方」を広く消費者に認識していただくことを目的に、「電池フェスタ」を開催し、各種展示会に参画したのに加え、全国テレビ6局でキャンペーンを実施した。ホームページについては、英文の内容を刷新した。機関紙「でんち」については、広く工業会活動を知っていただくことを目的に、インターネット配信とした。

・**国際関係対応への取り組み** リチウム一次電池が、米国内において旅客機に貨物として搭載することが禁止され、さらに、輸送梱包には所定のラベル添付が必要となり、会員メーカーへの周知徹底を図った。



リチウムイオン電池については、米国PRBA (Portable Rechargeable Battery Association) と協力して、国連規制案の規制緩和に向けたロビー活動を実施し、2年間の継続審議にこぎつけた。

- ・ **蓄電池設備認定** 認定機能を電池工業会から(社)日本電気協会へ移管した。当工業会は引き続き協力する。

## 2. 第2号議案 平成16年度収支決算報告の件

収入の部については、予算額318,758千円に対し、決算額328,256千円となり、9,498千円の増収となった。

支出の部については、予算額312,523千円に対し、決算額348,149千円となった。

当期収支差額はマイナス19,893千円、前期繰越収支差額と合わせて次期繰越収支差額は110,823千円となった。

## 3. 第3号議案 平成17年度事業計画の件

- ・ **再資源化** 使用済み自動車用電池の回収、再資源化の新たな仕組み作りを検討してきたが、電池メーカー、関係団体の支援を得て、リサイクルスキームを構築する。さらに、産業用鉛蓄電池を含む全鉛蓄電池の新たなリサイクルスキームを構築する。

リチウムイオン電池の再資源化については、電池性能の向上とコストダウンの観点から新しい材料の採用が進んでいる。JBRCとも密接な連携のもと、再資源化技術の研究を行う。また、昨年度より開始した、一次電池のLCAの調査も引き続き継続する。

- ・ **技術、標準化** 5月17日より横浜で行われるIEC/TC35の国際会議は、一次電池の規格審議の場であり、各担当委員が参画しJISとの整合性を働きかける。

また、本年より始まった新JISマークの取得について、会員各社の足並みを揃える方向で進めたい。

- ・ **PL** リユース乾電池の危険性について、啓発活動を推進する。

また、海外を含めた模倣品の安全対策等について、関係機関と連携して防止策に取り組む。

- ・ **広報** 従来の活動に加え、自動車用電池リサイクル法制化に基づいた、ユーザー、販売店等への新リサイクルスキームの啓発活動に重点的に取り組む。

チラシ、パンフレット等をPDFファイルでホームページへ掲載し、多くの方に利用していただけるような環境を作る。

- ・ **国際関係対応** 新たに二次電池の国際活動を開始する。

小形二次電池については、リチウムイオン電池のリチウム総量規制に特化し、米国DOT等へのロビー活動を行う。また、米国、EU、東アジアとの国際関係を強化する。さらに、中国、韓国への輸送安全啓発セミナーを開催する。

## 4. 第4号議案 平成17年度予算の件

収入の部については、当期収入253,936千円、前期繰越収支差額110,822千円、合計364,758千円、

支出の部については、当期支出250,016千円、次期繰越収支差額114,742千円となった。

## 5. 第5号議案 特別会計設置の件

リサイクルの研究に関する特別会計設置が承認され、第4号議案に特別会計として25,000千円を追加した。

## 6. 第6号議案 工業会規程改正の件

工業会規程改定について審議した結果、審議時間不足のため1週間の期限で確認し、疑義のない場合承認することを条件に、承認された。

## 7. 第7号議案 理事・監事選任の件

理事、監事選任が新たに承認された。任期は平成17年5月13日から平成19年5月総会日までとする。新たにソニー株式会社MSNC エナジーカンパニー プレジデント 井上 宣氏が選任された。

また、田中 千秋氏は理事を退任し、理事総数15名体制となった。

## 8. 第8号議案 役員互選の件

会長、副会長、専務理事が選任された。新体制は次のとおり。

会長 石田 徹 (松下電池工業(株) 取締役社長)  
副会長 本間 充 (三洋電機(株) 専務執行役員)  
大坪 愛雄 ((株)ジーエス・ユアサ コーポレーション 取締役社長)  
赤井 紀男 (日立マクセル(株) 取締役社長)  
専務理事 杉野 一夫

### 新体制



会長 石田 徹



副会長 本間 充



副会長 大坪 愛雄



副会長 赤井 紀男



専務理事 杉野 一夫

## 9. 第9号議案 会員入会の件

賛助会員に新生化学株式会社 (代表者 代表取締役 宮田 陽一)、日本リファイン株式会社 (代表者 代表取締役社長 川瀬 泰人) の入会を承認した。

会員状況は、正会員 18社、賛助会員 62社となった。

## 10. 報告事項

・ **正会員社名の変更** 日本電池株式会社と株式会社ユアサ コーポレーションから株式会社ジーエス・ユアサ コーポレーションの1社登録となった。

日立ホームアンドライフソリューション株式会社から株式会社日立リビングサプライ

・ **正会員代表者の交替** ソニー株式会社MSNC エナジーカンパニー 中川 裕氏から井上 宣氏  
株式会社日立リビングサプライ 柴田 哲郎氏から澤田 昌司氏

・ **賛助会員代表者の交替** 日水化学株式会社 高間 館 光氏から御前 英喜氏

郡是高分子工業株式会社 巽 謙蔵氏から森 信行氏

・ **賛助会員の退会** 高砂熱学工業株式会社 (代表者 石田 栄一氏)

なお、通常総会の前に第97回理事会を開催、通常総会に提出する議案を審議した。

総会終了後、同会館に於いて懇親会を行った。来賓として、経済産業省 商務情報政策局 情報通信機器課 環境リサイクル室・三木室長よりご挨拶をいただいた。引き続き、石田新会長をはじめ新役員の挨拶があり、新体制での強い決意を述べた。



石田会長



三木室長

# 会長就任のご挨拶

社団法人 電池工業会

会長 石田 徹

(松下電池工業株式会社 取締役社長)

このたび、電池工業会総会におきまして、皆様のご推挙により会長職を務めることになりました。

電池業界を取り巻く環境が厳しい状況にある中で、田中前会長の跡を引き継いでの会長職は大変な重責を感じております。

業界の健全な発展を支援する重責を果たすには

1. 「フェアな競争と協調」
2. 「コンプライアンス（遵法）」

を基本精神としてまいりたいと考えております。会員の皆様や関係団体様のご支援をいただきながら、従来からの工業会方針なり施策を踏襲しつつ新しい課題に対応し、業界発展のために少しでもお役に立てればと思っております。

さて、皆様ご存知のとおり、電池業界はここ数年販売金額で前年割れを続けております。昨年は、電池材料の高騰、工場の海外移転による国内生産の減少、輸入品の増加、電池使用機器の需要構造変化などが影響し、前年割れを止めることができませんでした。

そのような状況の中、工業会としましては環境共生への取り組みという視点で小形二次電池のリサイクル活動では、昨年有限責任中間法人JBRC

が独立し、会員数を211社に拡大させ、回収量も目標を達成し順調な滑り出しをしております。今後もその取り組みをさらに支援したいと考えております。

また、鉛蓄電池につきましては、10年前に自主回収制度を導入いたしました。今後は、電池メーカー、関係団体の皆様と協力して、時代の変化に即した「新たなリサイクルシステムのスキーム」を構築いたします。

さらに、電池の再資源化技術の研究、再資源化が環境に与える影響の科学的な研究も進め、環境問題に対応してまいります。

そのほか、欧州の電池指令、アメリカでのリチウム電池の輸送など、まだまだ多くの課題があります。国際的な協調関係を強化し、積極的に対応してまいります。

今後の活動目標と内容の一端を述べさせていただきましたが、会員の皆様をはじめ、関係諸省庁や関係団体の皆様とも連携を深め取り組む所存でございますので、倍旧のご支援をよろしくお願い申し上げます。



昭和に入り、スエ(据)置蓄電池の利用範囲は広汎となり、特に、ラジオ放送事業開設に伴い、ラジオの普及は蓄電池の需要増大につながりました。

スエ置蓄電池は、大正中頃まではクロライド式が使用されていましたが、大正4年にチュードル式が開発された後は種々改良され、大正中頃より製作が容易なチュードル式が主流となりました。しかし、これらは開放型であったため、充電時に酸霧が飛散し、特別に蓄電池室を設け、床面にはアスファルト工事、壁と天井には耐酸塗料を施す必要がありました。さらに、電解液の減少量が多いなどの欠点がありました。これらの欠点を改良するため、蓄電池の液面上に約5mmの流動パラフィンや鉱油を浮かせる、俗に油層電池といわれるものも作られました。

この欠点を解決するために、アメリカでは1940年(昭和15年)には密閉型(現在の密閉型とは異なるものです)の蓄電池が実用化されていましたが、わが国では、昭和24年(1949年)クラッド式の密閉型が実用化され、現在につながっています。

一方、自動車用蓄電池は、早くから研究に着手しており、大正8年(1919年)には国産品が市場に現れましたが、その需要は僅かでした。その後自動車の保有台数は増加しましたが、大部分の車両は輸入品だったこともあり、蓄電池も米国のエキサイト、欧州のワイラードなどの輸入品で、国産品は一般に認められていませんでした。



高野山電鉄細川変電所に納入した据置用電池(1930年)



フォード用(左)・シボレー用(右)自動車電池

大正末期には、日本フォード、日本ゼネラルモーターズの組み立て工場が完成し、自動車の生産数量は増加しました。これにより蓄電池の需要が激増し、国産蓄電池が使用されるようになり、その優秀性が認められ輸入を阻止することができました。

昭和5年(1930年)4月に湯浅蓄電池、12月に日本電池の両社が、それぞれオランダ領東印度(現在のインドネシア)に駐在員を派遣して自動車用蓄電池の輸出を開始しましたが、Made in Japan(粗悪品と云う代名詞)というだけで信頼されず、売れ行きは極めて不振でした。しかし、次第に日本製の品質が認められ、エキサイトなどの外国製品を凌駕するようになりました。

当時の日本国内の自動車の保有台数は14万台であったのに対し、オランダ領東印度は20万台で、大変魅力のあった市場であったわけです。

戦後以降の発展は皆様のご存知のとおりです。今回で、電池の歴史については一旦終了とさせていただきます。次回をお楽しみに!

# 平成17年5月度の電池工業会活動概要

部会	開催日	委員会・会議	主な審議、決定事項
特別会議他	13日(金)	理事会、通常総会	9件の議案の審議と報告事項の確認
	17日(火)	IEC/TC35(一次電池専門委員会)	横浜シンポジア(国際会議場)にて、9カ国から25名の参加
	19日(木)	広報総合委員会	ポスター、チラシ関係の内容討議、手作り乾電池教室スケジュール決定
	19日(木)	国際会議	エキスパートが参加し、一次電池の国際標準の審議
	20日(金)	蓄電池設備認定委員会	蓄電池設備資格審査6件、型式認定21件を審議、承認
二次電池部会	10日(火)	二次電池部会	自動車用電池リサイクルスキームの審議
	11日(水)	小形鉛分科会	平成17年度活動内容の審議
	12日(木)	二次PL委員会	平成16年度PL集計審議、表示ガイドラインの見直し審議
	16日(月)	産業用電池リサイクル委員会	産業用電池リサイクルの検討
	17日(火)	EV委員会	平成17年度活動内容の審議
	18日(水)	据置鉛分科会	SBAG0303審議、JISC8701可搬鉛蓄電池見直しの検討
	19日(木)	自動車用電池リサイクル特別委員会	自動車用電池リサイクルスキームの検討
	20日(金)	資材委員会	自動車用電池リサイクルスキームの検討
	20日(金)	(自)技術サービス分科会	始動用鉛蓄電池の焼損の見解審議
	23日(月)	用語分科会	据置蓄電池キュービクル(SBA S 0903)の様式の審議
	23日(月)	市販分科会	自動車用電池リサイクルスキームの検討
	23日(月)	直需分科会	自動車用電池リサイクルスキームの検討
	25日(水)	需要予測委員会	自動車用電池の需要予測検討
	26日(木)	自動車用電池リサイクル特別委員会	自動車用電池リサイクルスキームの検討
	26日(木)	資材委員会	自動車用電池リサイクルスキームの検討
	26日(木)	36VWG	自技会SBAS0101最終原案の審議
	26日(木)	充電器分科会	据置蓄電池キュービクル(SBA S 0903)の改定内容の審議
30日(月)	自動車鉛分科会	SBAG0101安全取扱指針の改正原案の審議	
31日(火)	二次電池部会	自動車用電池リサイクルスキームの審議	
小形二次電池部会	23日(月)	電池技術委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小形二次電池に使用される有機物質の調査結果の審議</li> <li>・急速充電の表示ガイドラインについての検討</li> <li>・IEEE P1725規格(米国)の審議状況の確認</li> <li>・ニッケル水素電池の非常用電源への採用に関する検討</li> </ul>
	24日(火)	再資源化委員会	リサイクルマーク国際標準化の検討及びCo系以外のLi電池分別回収の検討
	25日(水)	リチウム二次分科会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・IEEE P1725規格(米国)の審議状況の確認</li> <li>・リチウムイオン電池に使用される有機物質の調査まとめ</li> </ul>
	26日(木)	ニカド・ニッケル水素分科会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ANSI規格「市販用ニッケル・水素電池」の審議</li> <li>・ニッケル水素電池の非常用電源への採用に関する技術資料作成</li> <li>・ニカド電池、ニッケル水素電池に使用される有機物質の調査まとめ</li> <li>・JIS C 8708改正原案審議</li> </ul>
	26日(木)	業務委員会	4月度販売状況の検討及び動態確認、統計マニュアル見直し検討
一次電池部会	11日(水)	業務委員会	海外製アルカリ乾電池の化学分析を開始。 今年度、来年度の一次電池需要予測を開始、7月の部会で報告予定。
	17日(火)	JIS小委員会	IEC/TC35横浜会議 MT14審議への出席
	17日(火)	IEC小委員会	IEC/TC35横浜会議 MT14審議への出席
	18日(水)	リチウムWG	IEC/TC35横浜会議 MT15審議への出席
	27日(金)	PL委員会	今年度活動計画詳細審議。
27~28日	環境対応委員会	野村興産イトムカ精錬所を見学	

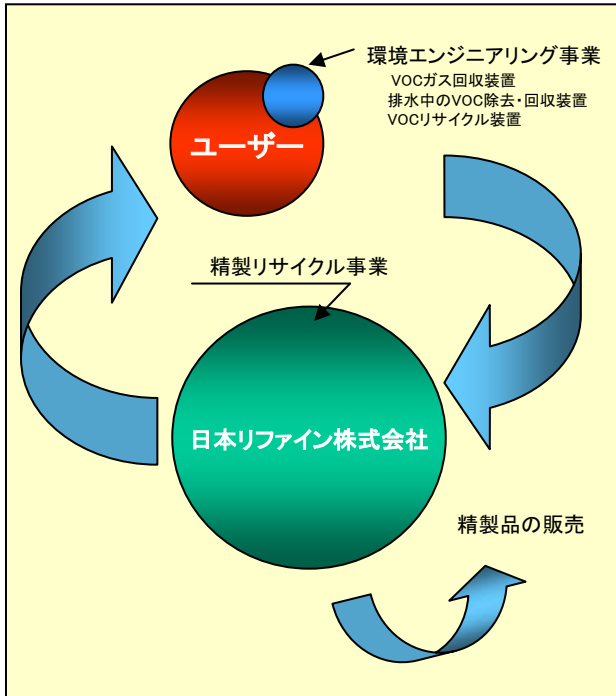
# 新賛助会員の紹介

## 精製リサイクル事業

廃溶剤のリサイクルと有効利用は当社にお任せ下さい。

- 高度な分離精製技術(リファイン技術)
- 多様な手法(受託精製から設備販売まで)
- 40年の市場・技術ネットワーク

### ◆業務形態



### ①受託精製業務

- 廃溶剤中の目的成分を、当社工場にて分離精製し、発生元に納品させていただきます。
- 年間500件以上の廃溶剤精製分離に関する技術開発の経験を蓄積しています。これらのデータは当社独自開発の蒸留計算ソフト、気液平衡ソフトに活用し、あらゆる分離状況のシミュレーションが可能です。
- 通常の蒸留・蒸発操作では分離不可能とされる共沸組成や、樹脂含有廃液等につきましても、共沸蒸留、抽出蒸留、真空乾燥など、高度な技術で精度の高い分離を実現いたします。
- 精度の高い蒸留技術を活かして、パージ品のグレードアップや、海上輸送コンタミ品の精製なども承ります。

### ②引取・精製品販売業務

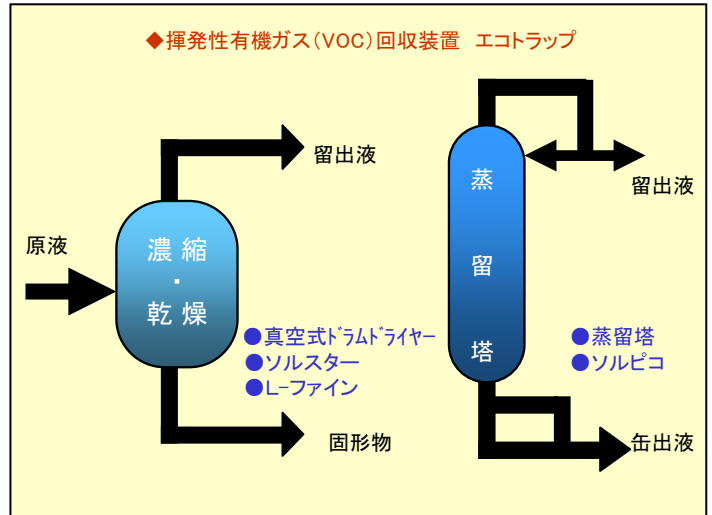
- 廃溶剤をお引取りして、再生溶剤の原料として活用させていただきます。
- 当社のネットワークを利用して、より有効な資源活用を目指します。

## 環境エンジニアリング事業

◎ 過去40年、溶剤リサイクルの経験・ノウハウをエンジニアリング・開発事業に結実させました。

◎ 溶剤の精製技術を核に、排ガス、廃溶剤、排水、廃プラスチック分野など、応用分野は広がっています。

### ◆技術領域



### ◆特徴

#### ①ハードメーカーにはできないエンジニアリングをご提案します。

- 40年間の溶剤精製業務を通じて獲得した精製分離技術、独自開発の蒸留ソフト等、培ったノウハウをエンジニアリングに展開し、貴社のご要望にお応えいたします。
- ・樹脂を含んだ廃液から効率的に溶剤を回収する。真空式ドラムドライヤー
- ・廃水からスラッジを効率的に分離する。ソルスター
- ・排水中の微量溶剤除去・回収装置ソルピコ
- ・排ガスの環境負荷を軽減させる超省エネルギー型の揮発性有機ガス(VOC)回収装置エコトラップ

#### ②エンジニアリング+α、日本リファインだからできるサービスがあります。

- 精製品や濃縮液の当社への引取りなど、受託精製、引取業務等との組み合わせにより、より有効な資源の活用方法をご提案いたします。

#### ③豊富なテスト装置による試験開発が可能です。

- ラボ、パイロット等、実機装置を各種保有しておりますので、貴社ご希望量のサンプルの作成等も承ります。



日本リファイン株式会社

#### <営業>

- 東京本社 〒100-0005 東京都千代田区丸の内2-2-1 岸本ビル11F  
TEL 03-3201-3333 FAX 03-3201-3322
- 大垣営業課 〒503-0018 岐阜県大垣市西之川町1-271  
TEL 0584-75-1212 FAX 0584-75-2245

#### <工場>

- 輪之内工場 ● 大垣工場 ● 千葉工場

#### <関係会社>

- 台湾瑞環股份有限公司
- 蘇州瑞環化工有限公司

H P <http://www.n-refine.co.jp>

E-mail [info@n-refine.co.jp](mailto:info@n-refine.co.jp)



URL:<http://www.shinsei-shiga.co.jp/>



本社工場(滋賀県)

MAIN OFFICE (SHIGA PREFECTURE)



市場開発研究所(滋賀県)

market development research laboratory



シンセイコーポレーション  
(U.S.Aジョージア州)

SHINSEI CORPORATION (U.s. Georgia)

**一步先の哲学で  
最先端技術への挑戦!**



新旭工場(滋賀県)

SHIN-ASAHI PLANT (SHIGA PREFECTURE)



豊岡工場(兵庫県)

TOYOOKA PLANT



## ノートパソコンなどの更なる長時間駆動化と動力用途他への市場拡大に対応！ 業界トップクラス\*1の“高容量タイプ”、“ハイパワータイプ”等 円筒形リチウムイオン電池のバリエーションを拡大！

三洋電機株式会社

三洋電機株式会社（以下、三洋電機）は、業界トップクラス\*1（販売ベースでは業界最高\*1）となる「高容量タイプ（Typ.\*2 2600mAh）」や電動工具などの動力用途に対応できる「ハイパワータイプ」など、円筒形リチウムイオン電池4モデルを新たに開発しました。これらの新モデルをラインナップに加え、量産を開始します。

ノートパソコンなどのIT機器に使われるリチウムイオン電池には、更なる長時間駆動のために、「高容量化」の要望が年々高まっています。また、これまでニカド電池やニッケル水素電池が搭載されていた電動工具などのハイパワー用途の市場で、「製品をより軽く、コンパクトに」という要望が高まり、新たにハイパワータイプのリチウムイオン電池が求められるようになってきました。さらに、「必要性能を確保しつつ、低価格のリチウムイオン電池を」というお客様のニーズを満たすことのできるコストパフォーマンスタイプも求められています。

このような、多様化する市場要望に応えるため、三洋電機は新たに4モデルの円筒形リチウムイオン電池を開発し、量産を開始します。

### 特長

#### 1. 高容量タイプ (UR18650F)

- ① 業界トップクラス\*3の高容量 (Typ.2600mAh) を実現！  
活物質の充填密度アップと内部構成部品や構造を見直し、業界トップクラス\*3の高容量を実現しました。
- ② 従来\*4と同等の高い作動電圧を維持  
高作動電圧を維持したことで、容量だけでなく、ノートパソコンなどで重要なエネルギー (Wh) も確保しています。
- ③ 機器側の設計変更が不要  
電池材料の変更は行っていないため、特性は従来のリチウムイオン電池\*4と同じであり、機器側の大きな設計変更は必要ありません。

#### 2. コストパフォーマンスタイプ (UR18650Y)

- ① コバルト使用量を削減し、低コスト化を実現  
コバルト代替材料の採用により、低コスト化を図りました。
- ② ノートパソコンなどで必要な、大電流を流すことが可能  
電池構成の最適化により、一度に流れる電流量を向上させることができました。
- ③ 高電圧を維持し、コバルトを削減しても、十分なエネルギー量を確保  
高電圧を維持できる材料を選択し、容量だけでなくエネルギー量についても遜色の無いレベルに仕上げました。



#### 3. ハイパワータイプ 2モデル (UR18650W、UR18650S)

- ① 当社独自のハイブリッド正極\*5と電池構成技術を駆使し、ハイパワー用途に対応  
高い安全性を有する、マンガン酸リチウムと、高容量化に適したコバルト酸リチウムのハイブリッド正極を用い、また、ハイパワー放電に適した電極設計にすることで、高容量とハイパワー対応を実現しました。
- ② 使い方に応じて、2モデルを選択可能  
UR18650Wの他に、更なる低コスト化要望に対応するため、コバルトの使用量を従来の1/5以下とした新正極材料を開発しました。この新正極材料を用いることで、ハイパワーを維持し、かつ低コスト化を実現した、リチウムイオン電池 (UR18650S) の開発に成功し、ラインナップに加えています。お客様の使い方に応じて、お選びいただけます。

\*1：当社調べ 2005年5月26日現在（18650サイズにおいて）

\*2：電池の実力値 (Typ.)

\*3：当社調べ 2005年5月26日現在（18650サイズにおいて）

\*4：正極にコバルト酸リチウムを採用したリチウムイオン電池

\*5：マンガン酸リチウムとコバルト酸リチウムのハイブリッド材料を採用した正極

ホームページURL：<http://www.sanyo.co.jp/koho/hypertext4/0505news-j/0526-1.html>

### 3月度電池および器具販売実績(経済産業省機械統計)

(2005年3月)

単位：数量、千個、金額、百万円

	単 月				1月～当月累計			
	数量	金額	数量 前年比	金額 前年比	数量	金額	数量 前年比	金額 前年比
電池・器具総合計	531,275	65,431	100%	101%	1,418,663	172,217	99%	100%
全電池合計	530,169	63,998	100%	101%	1,416,032	168,788	99%	101%
一次電池計	379,806	12,401	97%	97%	1,023,222	31,985	97%	95%
マンガン乾電池	57,531	972	88%	82%	176,883	2,914	87%	80%
アルカリ乾電池計	108,103	5,098	97%	91%	277,249	13,723	97%	94%
単 三	61,949	2,596	91%	87%	156,811	6,570	89%	86%
単 四	31,306	1,322	134%	116%	75,351	3,321	126%	120%
その他	14,848	1,180	77%	78%	45,087	3,832	91%	92%
酸化銀電池	85,702	916	90%	92%	236,304	2,530	95%	96%
リチウム電池	103,301	3,863	100%	96%	287,575	10,217	100%	89%
その他の乾電池	25,169	1,552	155%	160%	45,211	2,601	170%	192%
二次電池計	150,363	51,597	109%	102%	392,810	136,803	105%	102%
鉛電池計	3,529	12,885	95%	96%	9,987	36,299	99%	104%
自動車用	2,232	6,209	95%	95%	6,414	19,010	101%	105%
二輪用	393	826	93%	91%	1,023	2,122	92%	92%
小形制御弁式	596	787	89%	97%	1,781	2,197	93%	99%
その他	308	5,063	105%	99%	769	12,970	101%	106%
アルカリ電池計	67,001	11,312	113%	120%	178,649	30,104	107%	113%
完全密閉式	36,280	4,049	116%	123%	97,540	10,976	110%	112%
ニッケル水素	30,696	6,709	110%	120%	81,059	18,114	104%	117%
その他のアルカリ電池	25	554	114%	99%	50	1,014	93%	81%
リチウムイオン電池	79,833	27,400	107%	98%	204,174	70,400	103%	97%
器具計（自主統計）	1,106	1,433	124%	126%	2,631	3,429	100%	97%
携帯電灯	590	509	170%	188%	1,559	1,228	134%	134%
電池器具	516	924	94%	106%	1,072	2,201	73%	84%

### 3月度電池輸出入実績(財務省貿易統計)

(2005年3月)

単位：数量、千個、金額、百万円（少数以下四捨五入の為、合計が合わないことがあります）

	単 月				1月～当月累計			
	数量	金額	数量 前年比	金額 前年比	数量	金額	数量 前年比	金額 前年比
全電池合計（輸 出）	305,420	30,077	101%	99%	817,907	77,859	100%	95%
一次電池計	168,542	3,047	97%	104%	457,405	7,513	99%	93%
マンガン	33,469	372	82%	109%	105,802	1,034	85%	101%
アルカリ	26,422	455	138%	106%	64,730	1,024	114%	92%
酸化銀	45,250	483	105%	105%	121,292	1,272	114%	108%
リチウム	60,752	1,683	90%	104%	158,258	4,016	94%	87%
空気亜鉛	2,081	36	71%	83%	6,139	107	98%	108%
その他の一次	567	19	66%	40%	1,184	60	60%	67%
二次電池計	136,878	27,030	106%	98%	360,502	70,347	102%	95%
鉛蓄電池	499	985	187%	156%	1,085	2,044	154%	139%
ニカド	32,605	2,760	125%	129%	87,580	7,577	120%	127%
ニッケル鉄	0	1	—	—	0	1	15%	333%
ニッケル水素	19,390	2,603	124%	144%	51,550	7,393	121%	152%
リチウムイオン	69,460	18,204	104%	92%	175,731	46,604	99%	89%
その他の二次	14,923	2,476	72%	79%	44,556	6,728	75%	73%
全電池合計（輸 入）	64,257	6,486	129%	137%	204,607	19,220	119%	134%
一次電池計	55,395	1,119	126%	99%	177,759	3,823	116%	104%
マンガン	12,673	121	134%	88%	50,846	539	139%	115%
アルカリ	35,924	560	116%	96%	100,941	1,658	101%	94%
酸化銀	102	3	23%	30%	653	15	79%	89%
リチウム	1,919	159	126%	154%	8,239	714	193%	177%
空気亜鉛	1,096	30	176%	197%	3,979	103	153%	165%
その他の一次	3,681	245	398%	88%	13,103	794	137%	82%
二次電池計	8,862	5,367	154%	148%	26,848	15,396	151%	144%
鉛蓄電池	727	1,572	128%	112%	1,964	4,640	109%	114%
ニカド	2,095	476	87%	101%	6,760	1,243	84%	82%
ニッケル鉄	28	55	617%	1117%	53	106	134%	140%
その他の二次	6,012	3,264	216%	187%	18,071	9,408	230%	186%

今月号より業界動向はお休みさせていただきます。